



一事が万事 ～8つのチャレンジ～

校長 山田 哲哉

我が家の居間には、我が子が小中学生の頃から、「心の山田家8つのチャレンジ」という紙が貼ってあります。次の8つです。

- 1 明るいあいさつをしよう。
- 2 はっきりと返事をしよう。
- 3 はき物をきちんとそろえよう。
- 4 食事をしっかりとろう。
- 5 そうじや手伝いをしよう。
- 6 いいところをのぼし、
注意されたら素直に聞こう。
- 7 あきらめないでねばり強く取り組もう。
- 8 お年寄りや目上の人を大事にしよう。

以前勤務したT市では、小中学生のいる全家庭に「心のT市8つのチャレンジ」という合い言葉を書いたポスターを配付し、全市をあげて子どもの健全育成を目指していました（今も続いているようです）。それを模したものです。一つ一つは、当たり前のことです。しかし、当たり前のことが当たり前でないばかりか、多様な価値観や情報に振り回されている今だからこそ、いずれも大切なことばかりです。

毎朝、玄関前に立ち、子どもたちとあいさつをしていて感じるのは、「感じのいいあいさつができる子が多いな」ということです。すれ違い様に大きな声で「おはようございます！」だけではなく、近寄ってきて立ち止まり、ぺこりと頭を下げ「おはようございます」という子どもが多いのです。決して大きな声でなくても、この姿を見ると朝からさわやかな気持ちになります。所作が美しいから感じがよいのです。自然体なのです。「身に付く」とは、こういうことを言うのだと感じました。

これまで、このようなあいさつができる子どもたちに出会うことは、ほとんどありませんでした。見守り隊の皆様が毎朝こぼりっ子に声を掛けてくださり、民生委員児童委員の皆様が定期的に玄関前であいさつしてくださり、5・6年生の生活委員が毎朝あいさつの見本を見せてくれているお陰だと感謝しています。

さて、8つのチャレンジですが、当たり前のようであり、8つすべてを完璧にこなすのは難しいことです。しかし、「一事が万事」という言葉があるように、何か一つでもきちんと身に付いていると、それがあらゆる面に好影響を与えます。「これだけは徹底させる」という根気強い指導が大切です。

皆さんのご家庭ではいかがですか。もし、まだきちんと身に付いていないと感じる項目があったら、夏休みを好機ととらえ、ぜひ「〇〇家の合い言葉」にしてみたいはいかがでしょう。

我が家のチャレンジには九つめがあります。「ならぬことはならぬものです」という会津藩の教えです。子どもに迎合することなく、当たり前のことを当たり前に行わせようという毅然とした大人の姿勢が求められています。

えっ、我が子ですか？ 既に社会人の息子、娘ともに、中学生くらいまでは「靴そろえ」だけは完璧にできていたのですが、未だに、「ならぬこと」ばかりです。